



大学院だより

2018年度 大学院 Elective Study



森田訓子先生の報告会発表



齋藤真帆先生の報告会発表

今年度の大学院 Elective Study は、老年歯科補綴学講座 1 年次森田訓子先生（2018 年 8 月 22 日～9 月 20 日アメリカ合衆国カリフォルニア州滞在）と口腔健康科学講座 スポーツ歯学研究室 2 年次齋藤真帆先生（2018 年 9 月 8 日～16 日アメリカ合衆国カリフォルニア州滞在）が参加されました。

その研修内容を発表する報告会が、2019 年 1 月 24 日に行われました（上記写真）。両者とも、充実した研修の様子を発表されました。以下は、その研修報告の概要です。

海外研究レポート

老年歯科補綴学講座 森田訓子

2018年度「Elective study」のご報告を申し上げます。

1. 研修プログラムおよび実施期間

2018年度「グローバルプロ養成プログラム」(2018年8月22日—9月20日)

2. 日本からの参加者 7 大学(学部学生 5 名+大学院生 4 名)

岡山大学(学部学生 1 名)、慶応大学(学部学生 1 名)、東京大学(大学院生 2 名)、
東京歯科大学(大学院生 1 名)、新潟大学(学部学生 1 名+大学院生 1 名)、
福岡工業大学(学部学生 1 名)、立命館アジア太平洋大学(学部学生 1 名)

3. 研修概要と成果

1) グローバルプロ養成プログラムの研修内容について

①オリエンテーション

初日は午後 3 時にサンフランシスコ国際空港に到着し、夜は夕食を兼ねて懇親会が行われました。その後 4 日間は、生活に関するオリエンテーション、研修に関するオリエンテーション、ビジネス英語研修、研修派遣先に関する事前学習及び発表が行われました。慣れない環境での研修にあたり、目的をもって意欲的に学習することの意義に加え、危機管理の重要性についても学びました。

②インターンシップ

第二週目からは、サンフランシスコベイエリアでの企業研修が行われました。それぞれが興味のある企業や大学に赴き、そこで働く日本人開発者や研究者の方々の仕事を見学したり体験したりしました。私はスタンフォード大学の睡眠研究所で研修をさせていただきました。こちらの研究所では、西野精治教授をはじめ多くの日本人研究員が睡眠に関する研究をされていました。研修期間中は、西野教授の睡眠サイクルと脳内伝達物質の講義を受けたり、動物実験に用いられるマウスのDNA採取の手伝いをしたりと、充実した毎日過ごすことができました。また、現在日本でも西野教授が執筆された「スタンフォード式最高の睡眠」という本が出版されており、国民の睡眠への関心が高まっている中でこの研究所を訪問できたことは、大変貴重な経験であったと思います。

研修期間中、お世話になった方々に何か貢献できることはないかと思い、睡眠研究所内で無料歯科相談というイベントを行わせていただきました。去年研修に来られていた東京歯科の先生が行ったところ大変好評だったということで、今年も開催の運びとなりました。医療費や言語の問題でアメリカの歯科医院にはなかなか行くことができないという日本人の方が多く、このイベントでたくさんの方に話を伺うことで、少しでも力に慣れたのではないかと思います。

③シリコンバレー周辺企業訪問

4週目はGoogle、Apple、Intelなどの企業見学に行きました。企業見学では、各企業で働く日本人の方々から話を伺いました。どの企業も仕事と家庭の境界をなくそうという試みを行っており、仕事をしたいときに仕事ができる環境であること、休みたいときにすぐ休める環境であることが、仕事の効率化につながっていると感じました。

④ベイエリア周辺大学訪問

4週目の企業見学と並行して、シリコンバレーベイエリア周辺の大学訪問も行われました。UCサンフランシスコ、スタンフォード大学、UCバークレー、サンノゼ州立大学に訪問し、それぞれの学生や大学院生と交流したり、研究者の方々の話を伺ったりしました。アメリカでは自主性や創造性に加え、独創性も強く要求されるため、自分の研究がいかにか人と違って面白いかをアピールできること、また、自分の研究がどのように世の中に出ていくのかというビジョンが明確であることが、とても重要であると感じました。

⑤自主研修

研修最終週は、自分が見学を希望する企業や大学に自らアポイントを取り、研修に伺いました。私はスタンフォード大学のメディカルセンターや、UCSFの歯学部で骨と歯の研究をされているドクターの方とのミーティングを行うことができました。歯科関係者に関わらず多くの方から話を伺い、自分の将来についても深く考えさせられました。また、日本の教育ではジェネラリストを育成しようとする傾向が強いですが、アメリカでは専門性を高めて作業の細分化を行うことが求められているように感じました。日本的な考え方では一人一人の仕事量が増えてしまうというデメリットが、アメリカ的な考え方では知識の交差によるインスピレーションが生まれにくいというデメリットが考えられます。このデメリットを解消するために、アメリカの人々は職業の垣根を超えてミーティングやプレゼンを行う機会を得る努力をしており、イノベーションは1人の力だけでは起こらないということを学びました。

3) 日米未来フォーラム

9月14日(金)、US-JAPAN FORUM 主催の日米未来フォーラムがサンノゼ州立大学で行われました。

概要

- ・第1部 挨拶 : Opening Remarks (Yuji Ide)、Welcome Remarks (Sarah McGregor)、
Congratulatory Remarks (Tomochika Uyama, Toru Tamiya)
- ・第2部 講演 : End of Tradition ~Meiji Restoration and Innovation~ (Sayoko Sakakibara)
- ・第3部 発表 : What Is The Next Gold Rush? (Japanese students, SJSU students)
- ・第4部 パネルディスカッション ~Next Gold Rush Through The Collaboration Between the U.S. and Japan~
 - 1) Tomochika Uyama (Consul General of Japan in San Francisco)
 - 2) Glen Gendzel (Professor and Chair, Department of History, San Jose State University)
 - 3) Xiaojia Hou (Assistant Professor, Department of History, San Jose State University)
 - 4) Sayoko Sakakibara (Lecture, History Department, Stanford University)

感想

このフォーラムではサンノゼ州立大学の学生と協力し、事前に与えられた「What Is The Next Gold Rush」というテーマでディスカッションを重ね、プレゼンを行いました。パネリストとしては、在サンフランシスコ宇山智哉総領事やサンノゼ州立大学のGlen Gendzel教授、Xiaojia Hou教授、スタンフォード大学のSayoko Sakakibara講師をお招きし、それぞれの分野からイノベーションについてのレクチャーをしていただきました。今後の技術革新や産業革新がどのように世界経済を動かし、私たちの生活に影響を与えるようなゴールドラッシュ的飛躍につながるのか、未来を予見し創造性を養うことが求められていると感じました。



スタンフォード大学睡眠研究所にて西野教授(中央)と研修生



企業研修中間発表



サンフランシスコ ゴールデンゲートブリッジ



UC バークレー Museum of Paleontology にて ティラノサウルス全身骨格標本



インテル本社にて井手先生(左)と研修生 20 名

2018 年度 大学院 Elective Study 報告

—カリフォルニア・イノベーション研修コース— 出張報告

口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室
大学院 2 年 齋藤真帆

2018 年度 Elective study に参加させていただきましたのでご報告を申し上げます。

・研修プログラムについて

プログラム名：カリフォルニア・イノベーション研修

主 催：US-JAPAN FORUM 代表 井手祐二氏

期 間：2018/9/8～2018/9/16 9 日間

開 催 地：アメリカ合衆国 カリフォルニア州

参 加 者：弘前大学、岩手大学、東北大学、東京大学、東京歯科大学、大阪大学、
岡山大学、福岡工業大学の学部学生、大学院生 計 11 名

・研修スケジュール

Day1: サンフランシスコ空港着

オリエンテーション

Day2: オリエンテーション

グローバルプロ養成プログラム参加者による研修報告会

講演会 1; シリコンバレーでの起業 井手裕二氏 (US-JAPAN FORUM)

講演会 2; 世界を舞台にブラウザの变革 富田龍紀氏 (VIVALDI Technologies COO)

Day3: Intel Corporation; Intel Museum, Google Inc.; Visitor center, Apple Inc.,

Fujifilm; Open Innovation Hub 訪問

JBC セッション (Japan Bio Community オーガナイザー)

Day4: San Jose State University 学内見学、生徒とのディスカッション

NeuroSky Inc. 訪問

講演会; 日米技術イノベーションの融合 井手裕二氏 (US-JAPAN FORUM)

Day5: サンフランシスコ市内見学

University of California, Berkeley 学内見学、工学部研究室訪問、学生交流会

Day6: Stanford University 学内見学、法学部大学院訪問

講演会; 日系移民講演会 内田誠一郎氏

Day7: 日米未来フォーラム参加・発表。ワインレセプション

Day8: Day off

Day9: サンフランシスコ空港発

・日米未来フォーラムについて

日 時: 2018/9/14 (金) 11:30-17:30

場 所: San Jose State University, MLK Library

テーマ: Meiji Restoration and California Gold Rush-What is The Next Gold Rush

概 要:

第1部; Opening Remarks-Yuji Ide (President, US-JAPAN FORUM)

Welcome Remarks-Sarah McGregor (Director of International Gateways)

Congratulatory Remarks

-Tomochika Uyama (Consul General of Japan in San Francisco)

第2部: Keynote Speech

“End of Tradition: Meiji Restoration and Innovation”

-Sayoko Sakakibara (Lecturer, History Department, Stanford University)

第3部 : For the future: What is The Next Gold Rush? (Students' Presentations)

第4部 : Panel Discussions

“Next Gold Rush Through the Collaboration Between the U.S. and Japan”

-Glen Gendzei (Professor and Chair, Department of History, SJSU)

-Xiaojia Hou (Assistant Professor, Department of History, SJSU)

-Sayoko Sakakibara (Lecturer, History Department, Stanford University)

第5部 : Closing Remarks-Yuji Ide

・このプログラムに参加して

今回のプログラムでは医療に関する訪問先はなく、まったく知らない分野のお話がメインでしたが、どの訪問先の方も素人にもわかりやすく説明をしてくださったため興味をもってお話を聞くことができました。また参加しているほかの学生たちも、皆さんやる気に満ち溢れており、専門的な内容もしっかり英語で訪問先の方々に質問をしていて驚かされるとともに、彼らを見習わなくてはという思いが芽生えました。

プログラム期間中にイノベーションに関連したテーマで参加学生やサンホセ州立大学の学生とディスカッションの場がありました。ほかの学生がたくさんアイディアを出していく中で、私は「その技術の安全性はどうだろう。実現が難しいのではないか」など否定的な思考になってしまい、あまり意見が出せませんでした。Apple社で働く方にどのようにしてアイディアを生み出しているのか、またそのアイディアの実現に踏み切るタイミングはどうやって見極めているのかということを質問したところ、「あなたは医療を仕事としていて、失敗の許されない職業だから新しい技術や製品に対して懐疑的に接する姿勢は医療人として正しいと思う。一方で僕たちは失敗をしても実際に大きな損失はあまりでない。だからこういうのがあったら便利だなとかこれって楽しそうだなとかそういう風に思えることがあったらそれがそのままアイディアになるし、とにかくやってみるといのが新しい技術を生み出すのには一番の近道だ」とおっしゃっていたことがとても印象に残っています。

今回9日間という短い間ではありましたがたくさんの刺激を受けた日々でした。医療に携わるものとしての視点と新しい技術を生み出すための視点と2つの視点をもってこれからの診療・研究を行っていきたいです。

最後にこのような貴重な研修への参加の機会を与えてくださいました井出吉信学長、櫻井 薫大学院研究科長、齋藤 淳大学院教務部長、福田謙一大学院学生部長ならびに

ご指導いただいた US-JAPAN FORUM の井手祐二代表に御礼申し上げます。また、大学院関係の皆様、不在中ご迷惑をかけました講座の皆様にご心より感謝いたします。



サンフランシスコ市内観光



Apple 本社前にて集合写真



Stanford 大学 Oval にて

大学院入学説明会

2018年9月26日及び28日の2日間にわたり、大学院入学説明会が開催されました。説明会における各講座のプレゼンテーションの内容はWeb上に公開されています。

大学院3年次研究進捗状況報告会

2018年10月16日、17日、25日、26日の4日間にわたり、大学院研究進捗状況報告会が行われました。大学院3年次38名が、これまでの研究の進捗状況を発表し、分野の垣根を超えた大学院生達の活発な議論が交わされました。

大学院学生総会

2018年12月11日（火）午後7時より、水道橋校舎本館13階会議室において、2018年度大学院学生総会が開催されました。

編集後記

大学院だより21号は、2名の大学院生が渡米した Elective Study 中心の編集となりました。1年次で堂々と参加した森田先生、英語が大好きな齋藤先生、お2人とも明るく元気に多くの人々と交流し、高い志を持って様々な見聞をしてきたようです。Elective Study への参加は、一生忘れられない貴重な経験になると思います。来年度も多くの大学院生の参加を期待しています。

（福田 記）